

中国・雲南省

イスラーム教徒が多い 小さな村にもハラールレストラン



(左) 昆明市内にあった牛肉専門のハラール料理店。
(上) 大理市にあったモスク。緑のドームが目立つ。
(中) 通りすがった村にあったハラールレストラン。こんな感じでいくつもあった。

雲南省は24の少数民族が住むことでも有名ですが、100万人ほどのイスラーム教徒も住んでいます。

中国には総人口の1～2%。つまり約2,000万～3,000万人がイスラーム教徒とされています。新疆ウイグル自治区や寧夏回族自治区など中国各地に住みますが、雲南省もイスラーム教徒をよくみかけるところです。

町中には緑色の看板または緑色で装飾した「清真飯店」というのをよくみかけます。これはイスラーム教徒が安心して食べられるハラール食品を提供するレストラン。「清真」にはイスラーム教の意味があり、この文字をみればどこもイスラーム教関連の施設などを指します。

雲南省にイスラームが広がったのは唐から元の時代と言われています。モンゴル帝国時代にはイスラーム教徒が同省全体を統治もしています。また、19世紀中頃には清王朝に対するイスラーム教徒の蜂起も発生しました。中華人民共和国になり、イスラーム教徒は少数民族「回族」として認定されるようになったのです。

このイスラーム教徒向けのレストランは至るところにあり、雲南省でイスラーム教徒が多いことを物語ります。各地を回りましたが、主要道路沿いには必ずといっていいほど緑色の看板を出した「清真飯店」がありました。

また、イスラーム教徒が祈りに行くモスクもあります。こちらはそれほど見かけなかったのですが、大理市に立派な緑色のドーム型をしたモスクがありました。イスラーム教徒が多数を占めるマレーシアやインドネシアではモスクには必ず祈りを呼びかけるスピーカーがあるのですが、大理市でのモスクにはスピーカーはありません。イスラーム教徒が多数を占めていないため、周囲のことも気を使ってスピーカーでは流さないのでしょう。雲南省内には大きなモスクが5つあり、一部は仏教寺のような入り口を配したモスクもあるのです。

普通のスーパーなどでもパンなど「ハラール認証」(本当に認証されたのかは別問題)を受けたとするハラール商品を売っています。市場があるということなのでしょう。

北京や上海などとはまた違った雰囲気があるのが雲南省。さまざまな文化が入り交じる中国の広さを感じる省でもあるのです。